

単元名 3 言葉とともに 一俳句の可能性 俳句を味わう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 俳句の形式とその特徴について理解し、俳句を創作することができる。
 (2) 自分の思いや考えが分かりやすく伝わるように、語句や表現を工夫して俳句を創作することができる。
 (3) 進んで文章の種類とその特徴について理解し、学習課題に沿って、鑑賞文を書いたり俳句を創作したりしようとする。

標準的な展開例

12210114_001

【準備等】国語指導CD, 再生機, 植物の写真などの俳句の情景が想像しやすくなる資料

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 情景を想像しながら、それぞれの俳句を朗読する。 ○ 本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 情景を想像しながら、俳句を朗読しよう。 ○ それぞれの俳句を朗読し、想像した情景を話し合う。</p> <p>2 本文を読み、俳句についてまとめる。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 俳句の形式とその特徴についてまとめよう。 ○ 本文を読み、俳句についてまとめる。</p> <p>○ 本文や「俳句を味わう」(p.74)から最も気に入った俳句を1句選び、短い鑑賞文を書く。</p> <p>○ 鑑賞文を読み合う。</p> <p>3 「俳句を作って楽しもう」(p.75)を読み、俳句を創作し、発表し合う。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 表現を工夫して俳句を作り、発表し合おう。 ○ 日常生活の中から俳句を作る。</p> <p>○ 6～8人グループで、句会を行う。</p> <p>○ 各グループからよい作品を1句選び、全体に紹介する。</p> <p>○ 学習を振り返る。 ・ 俳句の特徴はどのようなものがあったか。 ・ 鑑賞文を書くときのポイントは何か。 ・ 句会で紹介された俳句で参考にしたい語句の使い方や表現の仕方。</p>	<p>・ 「目標」や「学習の見通しをもとう」でねらいを確認し、学習の見通しをもたせる。</p> <p>・ 「いつ」「どこ」「誰」「何をしている」などを具体的に想像させ、伝え合わせる。 【評】情景を伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 「季語」「有季定型」「歳時記」「切れ字」「自由律俳句」「無季俳句」の意味を確認させる。</p> <p>・ 本文中から、筆者のものの見方や感じ方がよく表れている語句や表現を抜き出して、意味を確認させる。 【評】俳句の形式とその特徴をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 感じたことや想像したことだけでなく、そう感じさせた俳句の中の表現や特徴を具体的に示させる。 【評】鑑賞文を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 同じ俳句を選んだ生徒でグループを作り、鑑賞文を読み合わせる。</p> <p>・ 「名人に学ぶ俳句の作り方」(p.75)を基に、俳句を作らせる。</p> <p>・ 学校図書館から、名句集や歳時記などを借りて来させ、参考にさせるとよい。 【評】俳句を作る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 「句会を開こう」(p.75)を参考に行わせる。二次元コードを活用してもよい。</p> <p>・ それぞれの句の評価や感想などの簡単なコメントを、付箋などに書かせるとよい。</p> <p>・ 1句を板書し、書いてもらったコメントを紹介させる。</p> <p>・ 後日、全員の俳句をまとめて配布したり、教室に掲示したりするとよい。 【評】学習を振り返る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【備 考】

俳句は、今日まで継承されてきた日本の代表的な伝統的言語文化の一つであり、世界的にも広く知られた短詩型文学である。定型や季語などの約束事を知るとともに、世界で最も短い詩である俳句の豊かな表現力に気付かせ、簡潔な表現に込められた多様なものの見方や感じ方を味わわせたい。

同じ対象を指していても、世代や地域、属する集団などによって、それを指す言葉が違う場合がある。また、相手や場によって、言葉の選び方や表現の仕方も違って来る。よりよく伝えるために必要な言葉の選び方や表現上の配慮などを、大人との接触も増えてくるこの時期の生徒に伝えたい。